

# ふくやま 公衛協だより

## 第27号 回覧

2024年9月

健康づくり・環境保全・温暖化防止活動

福山市公衆衛生推進協議会

会長 園尾 俊昭

〒720-8501 福山市東桜町3番5号

福山市まちづくり推進部まちづくり推進課内

TEL084-928-1051

### 2024年度(令和6年度) 福山市公衆衛生推進協議会総会

#### 福山市公衆衛生推進協議会 総会



5月31日(金)、福山市役所大会議室において福山市公衆衛生推進協議会総会が開催されました。各学区の代議員と理事及び受賞者、合わせて106名が参加されました。(福山市の総会は、理事及び代議員合同で行うことになっています。)

総会では園尾会長の挨拶の

後、福山市公衆衛生推進協議会表彰規定に基づき、公衆衛生推進委員を7年以上継続し、かつ、公衆衛生活動に貢献した19名の方に、園尾会長から、感謝状が授与されました。(表彰者のお名前は2ページに掲載)

来賓を代表して、枝広直幹福山市長、大原博福山市自治会連合会会長から挨拶をいただき、参加の行政職員の紹介の後、広島県環境保健協会(以下、環保協という)地域活動支援センターの中村博信センター長から挨拶をいただきました。

続いて議長に、竹尋学区坂本勝美理事を選出して議事に入りました。第1号議案 2023年度事業報告並びに事業会計収支決算・まちづくり基金決算及び監査報告について、第2号議案2024年度活動目標(案)・事業計画(案)及び2024年度事業会計収支予算(案)について、第3号議案2023年度地区衛生組織資金募集(環境・健康募金)実績報告及び2024年度計画(案)について、第4号議案役員(案)について、審議し原案通り承認・決定しました。



総会後に、基礎研修「公衆衛生推

進委員会の歴史」を学習したのち、環保協中村センター長から、全県共通事業重点メニューの「STOP!フレイル事業」と「食品ロス削減事業」の紹介・説明がありました。次に、学区等からの申請により取り組むことが可能な、「学習教材貸出事業」と、監視カメラや看板を支給する事業「見てますよ!不法投棄抑制の地域づくり事業」の説明がありました。後者は、今年度が最後の予定です。最後に、公衆衛生の推進を担う人材の育成・力量アップを目指す研修事業の取り組みや「環境と健康のポスター・標語コンクール事業」に対する今年度の取り組み状況等について説明がありました。

#### 役員体制

会長	園尾 俊昭	(道上)
副会長 (兼事務局長)	村田 政雄	(有磨)
副会長 (兼会計)	宮宗 弘光	(赤坂)
副会長	小林 乙也	(樹徳)
副会長	大和 智廣	(本郷)
副会長	渡壁 和則	(横島)
副会長	原 敬二	(大谷台)
監事	三宅 信太郎	(戸手)
監事	甲斐 勝	(神辺)

## 常任理事紹介（役員を除く）敬称略

（常任理事は各学区の理事からブロックごとの定数により選任されます。）

小林 康喜（新涯）	小林 哲仁（川口）	金尾 富子（光）	野間 晴夫（手城）
三吉 繁夫（旭丘）	岩井 信男（千田）	松本 睦夫（坪生）	村上 淳（鞆）
下村 恒司（熊野）	平川 輝司（新市）	長久 信男（駅家東）	瀧口 誠（常金丸）
前市 正詔（松永）	小林 英志（神村）	兼田 邦洋（田島東部）	菅田 憲蔵（御野）
坂本 勝美（竹尋）		会長・副会長7名を含め	合計 24名

## 新理事紹介 敬称略

（今年度は改選期ではないので新任だけ紹介します。）

猪木 勝久（川口東）	眞田 康幸（箕島）	中島 愛子（久松台）	岩崎 勲（西深津）
本瓦 公一郎（長浜）	松本 睦夫（坪生）	岸田 直樹（日吉台）	寺山 武士（水呑）
占部 光利（高島）	笠原 一彦（山野）	岩本 和浩（高西）	以上 11名

## 表彰を受けられた方（7年以上継続）敬称略

黒瀬 敏正（旭）	森元 幸美（西）	栗原 寛（西）	岸守 良雄（西）
迫 涼二（川口東）	村上 忠孝（箕島）	眞田 康幸（箕島）	門田 光正（箕島）
小畠 一人（千田）	藤井 二郎（千田）	高橋 郁夫（大津野）	水島 誠（伊勢丘）
大瀨 武彦（鞆）	中土井 一成（駅家）	三谷 竹志（松永）	兼田 邦洋（田島東部）
平井 香苗（千年）	川合 章仁（神辺）	坂本 英治（道上）	以上 19名

## 基礎研修「公衆衛生推進委員会の歴史」の内容

### 1 福山市公衆衛生推進協議会と広島県環境保健協会の関係について

昭和20年代に、地域の公衆衛生活動のため、県の要請で地区衛生組織が作られ、1957年（昭和32年）に、広島県内の公衆衛生組織が集まって、広島地区衛生組織連合会（県衛連）が結成された。事務局は広島県衛生部公衆衛生課内に置かれた。これが今、一般財団法人広島県環境保健協会になっている。

### 2 公衆衛生推進委員について

公衆衛生推進協議会・委員会は、1956年（昭和31年）頃は、県知事の委嘱となっていたが、1966年（昭和41年）には、各地域で選出された人を福山市長が委員として委嘱するようになった。委員と地域に活動資金・手当が交付されていた。

2006年（平成18年）から「協働のまちづくり」が始まり、委員手当として支給されていた資金は、2008年（平成20年）から、各学区のまちづくり推進委員会に、追加して予算配分されるようになった。そして、各まちづくり推進委員会の活動に、公衆衛生推進委員も参加することになった。

### 3 環境・健康募金について

環境・健康募金の正式名称は、地区衛生組織活動資金募集。1960年（昭和35年）4月7日の世界保健デーを「健康感謝の日」として定め、募金を開始した。募金の使い道は、地区公衆衛生推進協議会・委員会が定めることとなっている。募金の30%は、県内の地域をまたがった事業などや事務経費として環境協に残し、70%が市町に配分される。学区・地区に配分された募金は、学区・地区の公衆衛生推進活動を進めるために使うことができる。公衆衛生推進活動以外に転用することはできない。

# ブロック・学区紹介

## 西南ブロック

## 赤坂学区公衆衛生推進委員会会長 宮宗 弘光

赤坂学区の「献血」「清掃美化」「学校との連携」事業を紹介します。

### ①「献血事業」

- ・第1回は1971年（昭和46年）、受付人数は124人。以降、不定期開催
- ・1986年（昭和61年）から毎年実施
- ・2014年（平成26年）からは「まちづくり推進事業」として位置付けられ、学区まちづくり推進委員会の各団体が協力して取り組んでいます。



献血が200mlから400mlになった影響により協力者数が減少したことや、2020年のコロナ感染症の拡大の年は、献血開始から50年の節目であったことから、危機感をもって取り組んだ結果、受付数が増加しました。そのため、半日の日程では受け付けしきれないので、2023年度（令和5年度）から1日の対応とするなど、活動が活性化しています。

### ②「清掃美事業」

- ・1998年（平成10年）から取り組みを開始しました。
- ・「芦田川を守る日」や「都市環境月間」にも参加しています。
- ・2011年（平成23年）から、河手川美化活動に取り組んでいます。
- ・2014年（平成26年）から、「まちづくり推進事業」として、毎年5月と10月の2回の取り組みをしています。
- ・小学校、中学校、高校と連携した学区全体の取り組みとして、済美中学校と福山中高等学校の生徒さんがボランティア参加しているほか、学区の「子どもまちづくり委員会」の小学生も参加し、まちづくりの大きなイベントとなっています。



### ③「赤坂小学校との連携事業」

- ・学区文化祭で脱温暖化パネルを展示したり、学習会を開催したりしました。
- ・「エコライト・フェスティバル」（温暖化防止啓発イベント）を2008・2009年に実施しました。
- ・「地球温暖化学習」（6年生対象の出前学習）を2011年から実施しています。
- ・「田んぼの生物調査と観察」（5年生対象の出前学習）を2014年から継続しています。



地球温暖化に伴う環境への影響には大きいものがあります。小中高校生との河川清掃や小学校との身近な環境学習を通じて、脱温暖化の重要性を、身をもって感じてもらいたいと願っています。

# 第62回環境保健夏季大学に参加

7月18日(木) 19日(金)  
RCC文化センター(広島市)

環境協主催の合同研修、環境保健夏季大学が開催されました。コロナ対策もあり、2日間通いの研修会で、福山市公衛協からは23名の参加者がありました。

1日目は、【健康づくり】をテーマに、広島県の「健康」施策について、広島県健康福祉局健康づくり推進課長の山下十喜さんから、健康づくり計画の概要と介護予防の説明を受けた後、広島国際大学特任教授の國末和也さんから、「聞こえとコミュニティー活動 ～地域でいきいき活動するために～」の講演を聞きました。45歳から65歳の間では、加齢による難聴が、認知症の最も危険な因子となり、難聴になると社会活動の減少や認知機能の低下により、認知症のリスクが2倍になることが報告されました。65歳以上では、約半数の人に「聞こえ」の問題があるそうです。ヒアリング・フレイルリスクの自己チェックをして、聞こえにくいというのは難聴以外の問題もあることから、早めに耳鼻科に行くこと、補聴器の相談もできることなどを学びました。午後は3つの分科会、①カードゲームで「食べる」を考える、②体操体験などで「運動」を考える、③「聞く」で社会参加をする、に分かれて研修しました。

2日目は、【環境づくり・防災】をテーマに、「能登半島地震から見えてきた水・トイレの課題」について、特定非営利活動法人ひろしまNPOセンターの増田勇希さんの講演を聞きました。長期にわたり断水が続き、トイレなど大変困ったそうです。能登には井戸も少なく、防災井戸も未整備だそうです。簡易トイレの準備や、防災井戸の整備が必要です。午後は、3つの分科会、①災害時のトイレ事情を考える、②水利用と防災井戸を考える、③防災食と感染症を考える、に分かれて研修しました。



## 地区衛生組織活動資金募集(環境・健康募金)

令和6年7月末現在 募金 7,086,600円

ご協力ありがとうございました。引き続きご協力をお願いします。



健康づくり・食育応援！ポータルサイト  
毎月21は ふくやま健康づくりの日

ふくやま 健康づくり 検索



福山市公式LINEから  
「フレイルチェック」を  
クリック！11項目の質問に  
答えて、フレイル予防に



会	委	副	委員	広報
長	員	委員	長	委員
園尾俊昭(道上)	兼田邦洋(田島東部)	前市正詔(松永)	瀧口誠(常金丸)	佐藤和司(泉)
	金尾富子(光)	田邨勝二(湯田)	岩井信男(千田)	村田政雄(有磨)

**編集後記**  
今夏は命にかかわる危険な猛暑を体験しました。夏季大学に参加して簡易トイレの組み立てなど貴重な体験を得ました。能登半島地震の現状を学ぶ中で、被災された方々のご苦労を思うと、一日も早く平常の生活に戻れることを願うばかりです。  
さて、「公衆衛生」という言葉には重要な意味が含まれています。「みんなで、みんなの生命や生活をまもること」です。公衆衛生推進協議会は「環境」と「健康」を守るために組織された任意団体、皆様の生活に身近な問題に取り組んでおります。ご理解ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。  
(前市正詔)